

【取扱い厳重注意】

平成24年1月13日

### 聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 仁保智紀

平成23年12月21日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

#### 記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

経済産業省大臣官房審議官（総務担当） 貞森 恵佑

2 聴取日時

平成23年12月21日午後1時30分から同日午後4時30分まで

3 聴取場所

経済産業省本館17階 第4特別会議室

4 聴取者

関谷直也 チーム員

高嶋智光 参事官

飯崎準 参事官補佐

岡田幸大 参事官補佐

三田浩平 主査

仁保智紀 主査

齊藤修啓 主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

事故対応全般について

第3 特記事項

以上

【取扱い厳重注意】

○質問者 では、改めましてよろしくお願ひいたします。

冒頭、私の方から全体的なお話を伺えればと思っております。私は、仁保と申します。よろしくお願ひいたします。

本題に入らせていただく前に、このたびの事故に際して、総理秘書官でいらっしゃったということなんですけれども、危機対応時に、特に事故の所管官庁出身の秘書官である方が、どういった役割を担うことを期待されているのか、また、今回の事故対応で、結果的にどういった役目を果たすことになったのかということ、大まかで結構ですので御印象をお伺いできればと思います。

○貞森審議官 私は、経済産業省出身の秘書官でありまして、総理秘書官というのは何人かいるわけなんですけれども、担当が決まっています、基本的には出身の省庁にとどまりませんが、私の場合は、例えば環境省あるいは内閣府の一部も担当しておりましたけれども、そういう分野を担当するというものであります。

したがって、特に今回の事故の関係で言えば、原子力安全・保安院であり、あるいは資源エネルギー庁を含む経済産業省を担当している秘書官として、例えば保安院あるいは資源エネルギー庁に対する連絡とか、調整とか、そういった窓口としての機能もありますし、そういった分野を担当する事務の秘書官としての仕事をしていたということですね。

○質問者 そうしますと、基本的に総理と一緒に行動をされて、指示を受けたり連絡役としてつなぎ役をされるような。

○貞森審議官 基本的にはそうですね。

ただ、当然のことながら総理自身の行動の中には、例えば政務の方々のみの会議というものもありますし、いろいろなことをやりながらですので、必ずしも総理の動きを全部追っているわけではなかったと思います。

○質問者 もう一点、前提的な話なんですけれども、今回非常に専門性の高い知見が求められる事故であったかと思うんですが、以前に原子力行政であったり保安院で業務をされたことはございますか。

○貞森審議官 保安院で業務をしていたことはありません。一番近い分野という意味では、資源エネルギー庁の公益事業部計画課というところの総括の補佐をやっております、そこで電力行政全般の話をしていました。

そこで、例えばちょうどあのころは阪神・淡路大震災が起こって、原子力発電所への影響はどうなんだという御議論も国会ではありましたし、任期の終わりの方では例の「もんじゅ」の事故等もありましたし、もともと電源開発（J-POWER）がATRという特殊な実用炉をつくるという話だったものを、フルMOX型の軽水炉に切替えるといったオペレーションもやっておりましたので、そういった意味で電力行政全般をやる担当として、その中に原子力も含まれていたという範囲では、原子力についての知見は、勿論専門家というわけではございませんが、ある程度はございました。

○質問者 それでは、事故発生後の動きということで大まかで結構なんですけれども、3

【取扱い厳重注意】

月 11 日に地震が発生しまして、その後、こういった動きをされたかというのを簡単に御説明いただけますでしょうか。

○貞森審議官 もう詳細は覚えておりませんが、地震発生当時は、もう皆さん御承知のとおりだと思うんですけども、菅総理は決算委員会に出席をされていました。私は、たしか午前中の審議のときは決算委員会の現場にいたと思うんですけども、午後、地震が起こったときの質疑は自分が担当する答弁は予定されていなかったもので、私は官邸の方におりました。

それで、地震が起こった直後に総理が官邸の執務室に戻ってこられて、戻った直後に総理を本部長とする緊急災害対策本部が設置されて、3時半ごろだったと思うんですけども、地下の危機管理センターで、第1回の緊急災害対策本部というのが開催されたということで、私もその緊急災害対策本部が開催された地下の会議室には総理と一緒に行って、その会議に出ておりました。

○質問者 その後、事故が発生して、10 条通報、15 条事態の通報というものがなされてくるんですけども、そういった情報を秘書官はどういったタイミングでお聞きになられたかというのは、御記憶がございましたでしょうか。

○貞森審議官 いつだったかという、必ずしも記憶がありません。特に 10 条通報について、果たして総理に対しての報告があったか、あるいは、もしあったらいつだったかというところは、正直に申し上げて私は記憶がありません。

15 条通報については 17 時半過ぎに、記録によれば 17 時 42 分ということらしいんですけども、海江田経済産業大臣の方から総理に対して 15 条事象についての報告がなされて、原子力緊急事態宣言に関する上申書が提出されています。

○質問者 それ以前については、秘書官御自身も 15 条事態が発生したことについて何か話が先に入っているとかですね。

○貞森審議官 ということはなかったと言ったらあれなんですけれども、記憶にないですね。

○質問者 これは以前に聞いた話になるんですけども、緊参チームの要員として寺坂保安院長が官邸地下にいらっしゃいまして、17 時ごろに官邸 5 階に総理の指示で呼ばれて、状況の説明を求められたというふうに伺っておるんですけども、総理から院長を呼ぶようにとか、そういった指示があったりとかは。

○貞森審議官 院長を呼べと言われた記憶はありません。ただ、あの日の午後は、それが 17 時なのかどうかはわかりませんが、一度、寺坂院長が来られて、非常用ディーゼル電源がとまって、要するにすべての電源がとまったという報告を寺坂院長の方から総理にしたのは記憶しています。ただ、それが 17 時なのかどうかはわかりません。もう少し早かったかもしれません。

○質問者 そのころには、もう総理が 5 階に上がられているわけですね。それは災対本部が終わって、その後総理は上がられたということですか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 災害対策本部が終わって、総理は5階に上がっていきました。災害対策本部でどの程度の時間を過ごされたかというところもはっきり記憶がないのですけれども。

○質問者 御一緒に上がられているということでしょうか。

○貞森審議官 一人で戻った記憶はないので、たしか戻るときも総理と一緒にいたのではないかと思います。

○質問者 官邸5階で寺坂院長が説明をされていたときは、秘書官も御一緒にいられていて。

○貞森審議官 その17時のときかどうかはわかりません。もう時間を覚えていないんです。

とにかく私が覚えているのは、寺坂院長が、津波でというところまで説明していたかな、多分津波でという説明だったと思いますけれども、非常用のディーゼル電源もとまってしまって、すべての電源がない状態になっているという点を報告されていたのは記憶しています。それは、その場におりました。

○質問者 その寺坂院長を呼ばれた後に、総理が、東電の武黒フェローと■■■■部長という方を官邸5階に呼ぶようにという指示をされて、実際にこの二人が東電本店から官邸5階に向かっているようなんですけれども、東電の人を呼んで説明をさせてほしいとか、そういったやりとりは覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 具体的にいつ東電に対して呼べというふうに言われたかというところは、はっきりとあれないんですけれども、ただ、初日の夕方から夜になるような時間帯でしょうか、東京電力の武黒さん以下3~4人の人たちが官邸に来て、状況についての説明をされていたことは記憶しています。その後、武黒さんたちは、基本的にはずっと官邸の5階にいるような状況だったですね。

○質問者 その後、海江田大臣が17時42分に原子力緊急事態宣言に係る上申をされに官邸にいらっしゃったわけなんですけれども、その当時は、たしか細野補佐官であったり、寺田補佐官であったり、枝野官房長官も総理の執務室ないしはその辺りにいらっしゃったと聞いておるんですが、そういった政治家の方が集まってきたのがいつごろだったかというのは、御記憶がございしますか。海江田大臣がいらっしゃる前に、もう皆さん集まっていたような状況だったのか。

○貞森審議官 その日の夕方には、細野さんはいましたね。寺田さんの官邸の滞在時間は、あのころはまだ補佐官をやっていましたし、官邸に大体いつもいるのは寺田さんだったので、寺田さんも直後には官邸にいたと思います。細野さんはいましたね。寺坂院長が、ディーゼル発電機がとまったという説明をしたときには、細野さんがいたことは記憶していますね。

○質問者 このとき、もう既に15条通報は保安院の方になされていて、上申を総理にされるということは、経済産業省内では総理に上げるという意味決定がされて、官邸にいらっしゃっているわけなんですけれども、その段階で秘書課を通じてその情報が先に入ってきていたりということはありませんでしたか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 ということはなかったと思います。

○質問者 では、海江田大臣がいらっしゃるということも御存じではなかったということですか。

○貞森審議官 海江田大臣は、発災直後はもう下の管理センターにもいましたし、その後また戻られてから来たのかどうか動きはわかりませんが、あのころは別に、海江田さんが一々、今から行くとか行かないとかという連絡があるような状況ではなかったと思います。

○質問者 では、海江田大臣がいらっしゃって、総理に初めてこういう状況が起こっていますということが伝わった。

○貞森審議官 はい。

○質問者 その官邸5階で上申をされたときのやりとりなんですけれども、具体的に御記憶はございますか。

○貞森審議官 具体的にどういうやりとりがあったかというところは、もう覚えてないですね。

全部通していたという記憶もないんです。だから、あのときは何かで出たり入ったりしていたんだと思います。

○質問者 幾つか御記憶を喚起できればと思うんですけれども、総理は小森常務と直接お電話をされたと聞いております。最初、東京電力の武黒フェローらが官邸5階にいて、海江田大臣も説明に上がって来られた。ただ、実際に東電本店で対応に当たっている人と話をしたいと総理がおっしゃって、東電に電話をかけられたということをおっしゃるんです。

○貞森審議官 東電の小森常務と総理の間の会話というのは、私もつないだ記憶があります。ただ、それはもう日が暮れた後だったと思います。

○質問者 5時半以降ですか。

○貞森審議官 そんなものではなくて、もう8時とか9時とか、そういうタイミングからだったと思います。勿論その前に何らかの形で総理が小森常務と話をされているとすればわかりませんが、少なくとも私が取りつないだのは、もう8時とか9時とか、そんなタイミングだったのではないかなと思います。

○質問者 もう一点、上申をされているときに、途中で総理が与野党の党首会談に出席をされたというふうに伺っておるんですけれども、この出席の際に出て行かれるときには、秘書官は一緒におられましたか。

○貞森審議官 まず、そもそもその種の党首会談とか何とかという話のときには我々はついていくことがないので、その動静は一緒にしていません。たしか海江田大臣から説明をしていて、野党の党首が来て待っているとかが総理に伝わって。

○質問者 それは別の秘書官から話が。

○貞森審議官 そうですね。それはもともと私がつなぐような話ではないので。

それで、総理はやむを得ず短時間そちらの方に顔を出されて、またすぐに戻ってきたと

【取扱い厳重注意】

いう動きだったと記憶しています。

○質問者 そのときに、例えば先に緊急事態宣言を出してしまった方がいいのではないかとか、与野党党首会談を優先すべきなのではないかとか、そういう議論があった御記憶はございますか。

○貞森審議官 どっちがどうこうというあれはなかった気がします。勿論、総理が自らの中で迷われたことはあったかもしれませんが、ちょっとそこはわかりません。

○質問者 周りにいらっしゃった関係の方が、行った方がいいのではないかとか、そういうことをおっしゃった。

○貞森審議官 それは覚えてないですね。

○質問者 もう一点、これもまた別の方から伺った話なんですけれども、その上申の当時、貞森秘書官が官邸5階の執務室と秘書官室を出たり入ったりされていて、その中で、電源車の手配をする必要がありますということを秘書官の方から総理におっしゃって、恐らくそれが官邸地下に降りて、オペレーショナルな検討が始まったのか加速されたのかはよくわかっていないんですけれども、そういった話があったと聞いておりまして、そういったお話をされた御記憶はございますか。

○貞森審議官 電源車の話ですか。

○質問者 はい。

○貞森審議官 電源車は、正確にだれがどのタイミングでというのは覚えていないんですけれども、その日の一連の夕方から夜にかけての総理への状況の説明の中で、電源がすべて途絶えて、たしか当時は隔離冷却系という言葉が使われていたと思うんですけれども、バッテリーで動く水の循環を行う装置があって、たしかそのバッテリーが8時間分ぐらいは動くのだというような説明があって、まずはそのバッテリーがとまらないようにしないといけないので、バッテリーに対する充電をするため、更にはそもそもだめになった非常用ディーゼル発電機の代わりをするために電源車を確保しなければいけないという説明が、何時かは覚えてないんですけれども、夕方から夜にかけてのタイミングでありました。

○質問者 それは東電からあったということですか。

○貞森審議官 東電だったか保安院だったか、具体的にだれが説明したかというのは覚えてないですね。ただ、あのときはたしか東電も保安院も、それが必要なんだということを言っていたと思います。したがって、電源車をとにかく調達しなければいけないんだということで、それは東電自身もいろいろなところに持っていて、八王子とか那須とか、いろいろなところにある。その後で聞いたら、たしか東北電力も一部、電源車を回そうとしていたと思います。

とにかく電源車を送らなければいけないという話があって、その点は総理も物すごく心配をされていて、たしかそこで東電の小森常務に対してだと思えますけれども、何でも必要なことはやるので、手伝うのであってほしいと。例えば自衛隊のヘリコプターとか、自衛隊を使う必要があるのであればこちらの方でやるので、何でも必要なことは言ってほし

【取扱い厳重注意】

いという話を、総理の方から東京電力に対して話をしていました。

実際に、電源車が自衛隊の輸送用のヘリに乗るのかとか、そういったことも議論されていた記憶があります。

○質問者 そういった場合に、秘書官から直接東京電力にどういうニーズがあるんだというのを問い合わせられた記憶はございますか。

○貞森審議官 ある意味では、総理がそういうふうに言っていましたし、いろいろな現場現場で、実際に自衛隊の本部、そっちの東京電力、そこはちょっとよくわかりませんが、私自身がそのつなぎをやった記憶はありませんけれども、そういう状況だったものですか、防衛省から前田さんという秘書官がおりましたので、彼の方から自衛隊の方に連絡をして、例えば自衛隊のヘリで運べるかということに関しては、電源車のスペックが必要になるので、電源車というのは幅、長さ、高さが何メートルずつで、重さがどれぐらいなのかというようなものを教えてくれと、たしか私が東京電力に聞いていた記憶があります。直接東電にやっていたか、あるいは保安院ないしエネ庁にやっていたのかは記憶していませんけれども、そういった連絡をしていた記憶もあります。

○質問者 通常、秘書官がお電話をされるとなると、例えば保安院ではどの方とか、特定に決まっているわけですか。

○貞森審議官 別に特定に決まっているというわけではありませんけれども、私から連絡するので一番多かったのは片山企画調整課長だと思います。

○質問者 東電では、だれかと直接話をされた御記憶があるとか。

○貞森審議官 東電に直接というのは余りなかったと思いますが、総理からの電話をつながなければいけないので、あの日の夜は確かに小森常務に何度か、携帯で電話をした記憶があります。小森常務と話をすることもありましたし、もっと多くの場合はそのまま携帯電話を総理に渡して、総理から小森常務にということで話をした記憶があります。

○質問者 与野党党首会談から総理が戻ってこられて、電源車の話もあって、最終的に総理は緊急事態宣言の発出を了承されるのですが……

○貞森審議官 済みません、今の電源車の調達云々は緊急事態宣言を発出した後だと思います。

電源車がどうなっているんだとかというのを聞いていたのは、たしか最初の第1回目の原災本部が終わった後だったのではないかと思います。ひょっとしたら原災本部が始まる前にそれが始まっていたかもしれませんが、ちょっとその前後関係は記憶にないんです。

ただ、これはむしろ東京電力に聞いていただいた方がいいと思いますけれども、実際に電源車が動き始めたのは7時とか8時とか、そういうタイミングだったのではないかと思います。そこは済みません、正確な前後関係は覚えておりませんが、電源車のオペレーションが一番ピークで、総理の方が、例えば自衛隊を出してもいいからとか、そういう連絡を東京電力にしていたのは19時の非常事態宣言発出と、第1回目の原子力災害対策本

【取扱い厳重注意】

部の開催の後だったと思います。

○質問者 そうしますと、ちょっと相前後してしまって恐縮なんですけれども、総理が緊急事態宣言の発出を了承されて、その後、第1回の原災本部会合というのが19時過ぎに開催されておるんですけれども、総理が了承されたときのやりとりとかは御記憶がございましたか。

○貞森審議官 覚えてないですね。済みません。

○質問者 その後、総理は了承されて、原災本部会合のある場所に皆さんで移動されたかと思うんですけれども、秘書官も御一緒されて出席されましたか。

○貞森審議官 ええ。第1回の原災本部は4階の大会議室だったと思うので、それは階段を下りたらすぐそこというところですから、たしかそこは全秘書官が一緒だったと思います。

○質問者 その後、第3回の災害対策本部も引き続き行われまして、19時半過ぎぐらいまでやった。

○貞森審議官 併催だったかもしれませんね。しばらくの間は別々ではなくて、大体いつも一緒にやっていたんですね。

○質問者 そこに総理が出席されている場合は、基本的には一緒にいらっしゃったのですか。

○貞森審議官 いましたね。原災本部をやっているときは、何回か例外はあったかもしれませんが、基本的に同席したと思います。

○質問者 災害対策本部が7時40分ぐらいに終わりました、その後、総理はこのまま5階に戻られたんでしょうか。

○貞森審議官 多分そうだと思います。

○質問者 1点、今までのところで、当時、原災本部会議の席上配付資料というのはごらんになっていますでしょうか。

○貞森審議官 会議に出ていたのを見たと思います。

○質問者 原災本部長の権限を現地対策本部長に委任する関係の書類も席上配付されていたようなんですけれども、これについては何か保安院あるいは経産省の方から、こういうものもあるからよろしくという話を聞かれた記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 それはわかりません。あったかもしれませんが、なかったかもしれませんし、それは全く記憶にありません。

○質問者 その後の避難の関係で併せてお聞きしたいんですけれども、第1回の原災本部会議、災対本部会議が終わった後ぐらいからだと思うんですが、避難をどうするかということで、官邸5階で議論があったと聞いているんですけれども、その際、最初から総理がいたのか、それとも枝野官房長官の下である程度議論をしてから総理に上げたのかというところが、ちょっとわからないところがあるんですが、秘書官をされていたときの御記憶として、総理が避難の関係での議論をどのぐらい長い間、何時から何時ぐらいまでやって

【取扱い厳重注意】

いたかとかというのを覚えてらっしゃいますか。最初の3キロのときです。

○貞森審議官 これは質問項目でもいただいているんですけども、まず個別にどうだったかというのは覚えていません。

それで、全体的に避難の話は、基本的に先ほどおっしゃった話でいくと官房長官が中心になって議論をした。だから、むしろ枝野官房長官と福山副長官と、下ですね、内閣防災とか、伊藤危機管理監とか、そこら辺が中心になって議論をして決めていた。官房長官のところである程度決めて、総理に了解をとって出していたというのが基本的な流れだったと思います。

○質問者 官房長官を中心に議論していた場合には、貞森さんはいらっしゃったんですか。

○貞森審議官 入ってないですね。

○質問者 あと、細かいことなんですけれども、3キロ、10キロ、20キロといろいろ拡大されていっているんですが、3にした根拠とか、10にした根拠とか、20にした根拠というところは余り覚えていらっしゃらないですか。

○貞森審議官 それは全くわかりません。ただ、それはある程度、保安院とか原子力安全委員会とかで、事前に目安みたいなものが決まっていたということではないんですか。例えば10キロというのは、何かで決まっているんですね。

○質問者 EPZですね。

○貞森審議官 そういったものを参考にして、専門家の方で議論されて決められていたものだと認識しています。

○質問者 これを決めるときの大体の流れなんですけど、官房長官を中心に議論しているときの場というのは、総理応接室になるんでしょうか。

○貞森審議官 官房長官が中心になって議論しているときは、官房長官室でやっていたのではないですか。

○質問者 入られてないからわからないのではないですか。

○貞森審議官 わかりません。

○質問者 最後、総理に仰ぐときは総理執務室に入ってきてやられていたということですか。

○貞森審議官 というのが普通だと思います。ただ、個別個別でどうだったかというのは覚えてないですね。

○質問者 この中で3キロ、10キロというのは、当時いたいろいろな事務方の人から聞いて大体わかっているんですが、3月12日の6時25分に出ている20キロの部分が、まだちょっと判然としていないところがありまして、どうも海水注入の話とかを議論している中で出てきたというふうに聞いているんですが、この12日の海水注入の議論のときは、貞森さんもその場にはおられたんでしょうか。

○貞森審議官 これだけは覚えてます。3月12日の18時25分ですね。

○質問者 はい。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 ここだけは覚えていまして、それは何でかという、海水注水の話が関係しているものですから。

この点は何度も、例えば国会などでも質疑されていて、総理は何度も答弁していますけれども、その日の夕刻、12日の夕方の段階で1号機に注入する真水が切れたか切れそうだという状況になって、その夕方になってどうするんだという議論になって、当然、真水がないので海水を入れるしかないという話になりました。

それで、海水注入をするという話なものですから、総理に報告をして、確認してからやろうということになって、18時ごろからだったと思いますけれども、総理応接室で保安院、安全委員会、東電、細野補佐官もいたと思いますが、そういった人たちで議論をしていて、総理に報告をして確認をとろうということで、18時ごろから総理を交えた形で会議を行いました。

そのときに、前提として、すぐに海水注水はできるんですねという話をみんな心配していて、そうしたら東京電力の武黒さんが、実は配管とかがちゃんとワークするかどうかとか、まだ確認しなければいけないので、そんなにすぐには入れられないんですという話があったんですね。まだそっちの方は時間がかかるという話だったんですけれども、とにかく海水注水は早くやらなければいけないということで決めたわけです。

それで、総理の方にその話をしたら、総理は、海水を入れるということは当然塩が入っているわけなので、そこは本当に大丈夫なのかという点を質問されたわけですね。それに対して班目委員長の方が「海水なので塩が入っていますから、余り長く入れていると腐食するかもしれませんし、塩が濃くなって詰まったりとか、塩が入ってくることによる問題がありますが、今は緊急事態なのでやらなければいけない」という説明をされて、そうしたら総理が「再臨界の可能性はないのか」という質問をされたんですね。

それに対して、これは私の記憶です、したがって、これは班目委員長側にはやや異論があるんですけれども、私の記憶では、そのときに班目委員長は「可能性はあります」というふうにおっしゃいました。班目委員長の事後的な説明は、ゼロではないという意味でそういうふうにおっしゃったということなので、その後、例えば国会答弁とか、あるいは東京電力の統合本部で、この海水注入の経緯については事後的に経緯を発表していますけれども、その紙では、班目委員長は再臨界の可能性はゼロではないという趣旨の回答をしたというふうにまとまっていると思います。

したがって、私の記憶は公定版とは違いますので、もし支障があるようであれば、その点は伏せていただいても構わないんですけれども、私は「可能性はあります」というふうに言われたと記憶しています。

何でそこだけ覚えているのかということなんですけれども、あのときは「可能性はあります」と言っているのを横で聞いて、私は本当に恐くなったんですね。本当に海水が入らなくなってしまうかもしれない。

そうすると、危ないではないかという議論になって、そうしたら総理は「だったら、そ

【取扱い嚴重注意】

の点は本当に大丈夫なのか」というふうになって、ちょっと再整理をしようということになったわけです。それが多分6時20分とか6時25分とか、6時～6時25分ごろにかけて総理の下での会議がありまして、その後、約1時間ぐらい、要するに、次に総理に説明するときはいい加減な説明ができないので、ちゃんと安全委員会と保安院と東京電力とみんな、再臨界の危険性はほとんどなくて、今はとにかく海水注水を急がなければいけないという説明をきちんとすり合わせて、7時40分ぐらいだったと思いますけれども、総理に再度説明をして、今度は了解をいただくんです。

その再臨界するかもしれないという話が出て、一度その会合が流れる直前のタイミングで枝野官房長官が「いずれにせよ、そういうリスクのある状態なのであれば、避難について対応しなければいけないのではないか」という発言をされて、たしかその場で、枝野官房長官と細野補佐官と、済みません、正確にわかりませんが、福山副長官と、その辺の関係者がいたと思うんですが、そこで大至急協議をして、避難範囲について広げる必要があるのではないかとということで、そういった結論を出したというふうに記憶しています。

○質問者 20は、このときに再臨界の可能性というのを契機にして、枝野さん、細野補佐官、福山官房副長官辺りで、その場で議論して。

○貞森審議官 そこは、むしろこれを具体的に検討された方々に聞いていただければと思いますけれども、再臨界がということよりも、それだけ炉が危ない状態にあるということですよ。

1号機は、事後的ないろいろな検証等では、とっくの昔に空だきになっていたということらしいんですけども、少なくともあのときの認識としては、まだ水はあるのではないかとこの前提で、真水が切れては危ないので、海水を入れなければいけないという前提での認識の議論だったんですけども、いずれにしても、1号機について非常に危険な状況であるということには変わりがないので、10で大丈夫なのかということで20に拡張されたという経緯だったと記憶しています。

○質問者 今の話の流れの中で、ブレークが入る直前のタイミングで、枝野官房長官が避難の範囲についての再検討の話を始められたということなんですが、その直前にといますか、6時ぐらいからの議論の中で、班目先生が再臨界の可能性はありますという趣旨のことを言われて、貞森秘書官が恐くなったという話をされておりましたね。その恐くなったという趣旨は、私が正確に理解しておれば、海水を入れるしかないのに再臨界という話が出たことによって水を入れるのが遅くなるのではないかとということで恐くなったという趣旨ですか。

○貞森審議官 そうです。海水注水をしなければいけないのは明らかでありまして、私は素人ですけども、結果的にはそうでなかったと思うんですが、少なくとも制御棒は全部入っているわけですね。制御棒は全部入っていて、仮にそれが少々損傷したとしても、制御棒の素材ごとだまみたいな状態になっているはずなので、再臨界なんて起こりっこない

【取扱い厳重注意】

んです。

だから、科学的にゼロだということは言えないと思うんですけども、つまり臨界というのは、減速材である水が非常にうまく具合に燃料と燃料の間に入って、そこで初めて連鎖反応が起こるわけですから、炉がいい状態であれば完全に制御棒が入っているし、悪い状態であればだまみたいになっているので、いずれにせよ再臨界なんか起こりっこないという程度の知識は私にもあります。しかも、塩が入ってしようが入ってまいが関係ないのではないかと思っていて、だから、当然ありませんと答えるよなと思って横で見ているんですけども、そういうふうにちゃんと答えてくれなかったの。

総理だって、そういう話を聞いてしまえば、すぐに入れるという話はできませんね。だから、海水注水が遅れてしまうのではないかというので、非常に危機感を持ったということ。

○質問者 その後に、枝野官房長官が、そういうことならということで避難の話に行くわけですけども、そのときに枝野官房長官の認識がどうだったかということは枝野官房長官に聞かないとわからないんですが、貞森秘書官がそばで見ちゃって、枝野官房長官は再臨界があるというふうに思っちゃったんでしょうか。

○貞森審議官 それはわかりません。ただ、あのときの議論として、再臨界が起こることを前提に物事を考えていたということは多分ないと思うんですけども、そこはわかりません。

○質問者 そうすると、その議論は1号機の炉の状態がもっと大きく、再臨界も含めて何か危ない状態にあるぞということだったんですか。

○貞森審議官 もともと1号機については、結果的にはもっとひどかったんですけども、あのときはまだ水が残っている前提で、しかも海水を注水すればちゃんと冷却ができるという前提での検討でありますけれども、炉が非常に悪い状態であるということには変わりないわけですね。その認識は間違いないものだと思いますので、具体的に再臨界するからということではないと思いますけれども、それはむしろ避難の方の検討をされていた方々に、当時の真意はどうであったかということをやっていただければいいと思うんですが、私はとにかく再臨界するのかもしれないのかという問題について、1回終わった後で、どういうふうに整理して総理に再度説明するか、そっちの方ばかりで頭がいっぱいだったものから。避難の方はもともと余り関与していないので、そこについて責任のあることは申し上げられません。

○質問者 1点だけよろしいですか。

海水注入のやりとりをされたときに、海江田大臣はその場にいらっしゃった御記憶はありますか。

○貞森審議官 海江田大臣はいらっしゃいました。その18時～18時25分ぐらいの会議のときには、海江田大臣はいらっしゃいました。

○質問者 保安院さんからいただいたクロノロジー、時系列資料がございまして、その中

【取扱い厳重注意】

の記載に、17時55分、まさに協議が始まる前ぐらいの段階で、海江田大臣から「海水注入をするように」という口頭指示が東京電力に出ていた。そういう話は、その時点では伺っていましたか。

○貞森審議官 全くありません。

○質問者 では、官邸5階の状況としては、海水注入に向けた作業を東電が始めているという認識はだれもなかった。

○貞森審議官 むしろ早くやってほしいんだけど、なかなか始められない、まだ準備に時間がかかるという話だと、武黒さんからは説明を聞いていました。

これは私自身ではないんですけども、18時25分に終わって、総理のところまで再検討をするということになって、19時40分ぐらいに再度入るんですけども、その検討している間のところでも、たしか部屋を出た直後ぐらいだったと思うんですが、武黒さんの方に「ところで、これはやるという話になったらすぐに入るんですよ」と聞いたら、まだ自信がないようなことをおっしゃっていたんですよ。

だから、我々はまだ、海水は少なくともその時点では入っていないくて、その点をどうするのかを検討しているという前提での議論でした。

○質問者 では、入れてよいという指示が出れば、いつでも入れられるように準備はしているという認識はあった。

○貞森審議官 そこは、そうだったと思います。

○質問者 そのブレイクの間は、秘書官御自身はどういったことをされていたんでしょうか。

○貞森審議官 ずっとそうだったかは覚えてないんですけども、かなりの時間は、保安院と安全委員会と東電の3者と一緒になって、どういうふうに論点整理するかというので、たしかあときは経済産業省の官房総務課長をやっている柳瀬君も一緒だったんですけども、彼が「こんなフォーマットで整理しましょう」と言って、論点を整理した紙のアイデアみたいなものを言って、「では、それで行こう」と言って、彼らが意見をまとめるのを横で見ているというか、それがほとんどの時間だったのではないかと思います。

○質問者 その協議にしろブレイクの間にしろなんですけども、海江田大臣がいらっしゃって、大臣から既に指示を出していますという発言はなかったですか。

○貞森審議官 なかったです。知らなかったです。それは、私はしばらく知らなかったですね。

○質問者 それでは、その情報は官邸の5階の中では全く共有されていないような状態であったということですか。

○貞森審議官 全く知らなかったです。

○質問者 実際に水が入り始めたという連絡が来たのは何時ごろかわかりますか。

○貞森審議官 海水の話ですか。

○質問者 はい。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 何時も何も。

それからもう一つあって、19時40分に、総理に対して大丈夫ですので海水を入れますと言うときに、総理のところでの2回目の検討の方では、ホウ酸を含めて入れるということになって、それでやったわけですがけれども、たしか8時ごろ、8時前だったかな、その結論が出て、総理了解だということになって連絡をして、ホウ酸も混ぜて入れるということになってやったということなので、それで東電はもうやっているんだろうというふうに思っていましたね。だから、いつから水が入り始めましたよという報告が具体的にあった記憶はないですね。

総理の了解がとれたぞという連絡をして、もともと東電は入れようとしていたわけですから、うまくいったんだろうなどその当時は思っておりました。

○質問者 そのときは、指示を出せば東電はすぐに動けるような状況であるという認識。

○貞森審議官 その点は心配だったんです。むしろ配管の準備がどうだとかいうところがボトルネックになるかもしれないという危惧は持っていましたので。

ただ、その後まだ入らないとかいう連絡は来ないので、間に合っとうまくいったんだろうなどという程度の認識だったと思います。ひょっとしたらちょっと違う連絡が入っているかもしれませんが、私の当時の記憶だとそういう認識です。

○質問者 調査の過程でこういうペーパー、これは確認書的なものですがけれども、見覚えはございますか。

○貞森審議官 ないですね。これは何ですか。

これはいつごろの文書ですか。

○質問者 恐らく4月になってからではないかと思われそうですが、どうでしょう。

○貞森審議官 まさに1号機の海水注入の経緯については、国会で問題になったので、たしかTBSの夕方のニュースが契機だったと思うんですがけれども、それで報道をされて割と大騒ぎになったので、かなりの時間をかけて経緯をとりまとめたんですね。最終的に、それは統合本部と保安院だったかな、その名前か何かで紙にして発表していますけれども、ただ、その内容はこれとは違いますね。

総理が入った会議で海水注入について議論したのは、たしか18時ぐらいからだったと記憶しています。それを調べていく過程で、実は17時55分に海江田大臣が指示を出していたんだということも後から判明して、それはたしか東京電力の中での福島でないところの原発か何かの、テレビ会議か何かの記録に何かが残っていたというので、海江田大臣に聞いてみたら「そうだったかもしれない」とかという話になって、たしかそういうことになったと記憶しているんです。

だからいずれにせよ、こういう形で、自分の名前が書いてあるので気持ち悪いんですがけれども、私はこれで相違がありませんなどというふうにコミットしたことはないと思います。

○質問者 どなたが起案されたかとか、どなたかからメールで、これでいいかという話が

【取扱い厳重注意】

来たとか、あるいはこの内容ではなくても、別の内容でこういう確認の連絡があったとか、そんなことはないですか。

○貞森審議官 ないですね。

ただ、これに関係して思い出すのは、総理が海水注入を指示したという紙が、たしか手書きのメモか何かが、危機管理センターか何かがまとめている時系列の中に入っているんですね。海水を使えと総理が指示したとかいう。何でそういう記録が残っていたのかというのはいらないんですよ。

それで、海水注入について、わざわざそこまで別途細かく関係者のみんなから話を聞いて経緯をまとめたんですけれども、それとは全く無関係に「18時に総理が海水注入を指示した」というあれが残っていて、それでおかしいではないかと、それがたしか国会でも追及の材料に使われたので、この18時に海水注入を指示したというのは間違いなんだから消さなければいけないのではないかという議論を、官邸の中でしていた記憶はあります。

○質問者 そうですか。

○貞森審議官 18時でなくて、19時55分というのは。

ただ、この紙は知りません。これは何ですか。

○質問者 これもいろいろな調査の過程で出てきているものでして、現段階ではどこからかというところは申し上げられないところなんです。

○貞森審議官 この2.と3.は大体正しいような気がします。19時半だったか、もうちょっと遅かったと思うんですけれども、19時40分ぐらいだったと思いますが、8時前ぐらいに総理が海水注入を決断したという、こちら辺は事実関係としては正しいと思いますが、手前のところはちょっと違うのではないかと思います。

○質問者 もう少し遅いということですね。

○貞森審議官 はい。

この紙の性格はよくわかりませんが、これはもうさんざん議論をして、最終的に一度、統合本部内で発表したところ、「再臨界の危険性はない」というふうに書いてあったところに班目委員長が激怒されて、これは報道されているので皆さんは御存じだと思うんですけれども、班目委員長も交えて経緯を確認し最終的にまとめた、海水注入についてはその経緯書があって、それは統合本部だか保安院からプレスに発表されている紙があって、それ以上でもそれ以下でもないという整理になっていました。

○質問者 それはいつごろの話ですか。

○貞森審議官 まさに国会で質問されて、たしか最初に谷垣自民党総裁から質問された復興特だったか、予算委員会だったか、済みません。5月だったと思います。

○質問者 国会で問題になったのは、5月になってからですね。

○貞森審議官 5月だと思います。たしか日中韓サミットを福島でやる日だった記憶があるんですね。土曜日だったか。私はもともとそれに行く予定だったのを、この海水注入騒動で行けなくなって、細野補佐官とかも含めて、当時の事実関係の確認をずっとやってい

【取扱い嚴重注意】

た記憶があるので、それはたしか5月だったと思います。

○質問者 このときは18時に総理が最初に海水注入されたという話が表に出ていたと思うんですが。

○貞森審議官 海水注入の指示をしたということですね。

○質問者 貞森審議官の御認識では、  
そういった話が表に出ていたのかという御認識でしょうか。

○貞森審議官 混乱した原因の1つでしょうね。何でそうなったのかはわかりませんが、それがすべてだとは思いませんけれども、原因の1つだと思います。

たしか国会でもその話が出たのではないのでしょうか。総理を追及して、おかしいではないかという議論があった。

○質問者 また外形的な、全体的な話にちょっと戻って、時間も相前後してしまって恐縮なんですけれども、官邸5階で主な議論がされて、海水注入を含めいろいろな議論がされていたかと思うんですが、一部報道で、官邸地下の危機管理センターの上にある中二階の小部屋と言うんでしょうか、小さな部屋で少数の政権幹部が集まって事故対応について議論をされていたというふうにも伺っておるんですけれども、そういった部屋で貞森審議官が総理と一緒にいて協議に陪席をされたとか、そういう御記憶はございますか。

○貞森審議官 それは記憶にないですね。

○質問者 総理がそこで実際に協議をされていたという御記憶はございますか。

○貞森審議官 それはわかりません。というのは、私はそれほど行っていないので。

勿論、総理が何がしか、打ち合わせをしていた可能性も当然あると思うんですけれども、私はそこに同席していないと思います。

○質問者 そういった場合は、総理とは別々に秘書官が動かれていた。

○貞森審議官 そのころは、余り5階から離れられないんですね。危機管理センターに行ってしまうと、携帯電話が通じないので躊躇するんですよ。結局行かなくなってしまうというか、だから、私は余り地下に行っていないですね。何度行ったかというのも記憶にないんです。最初に行ったのと、あとは2～3回ですかね。何か具体的に用があってだれかに会いに行くとか、そういうことで降りていった記憶はありますけれども。

○質問者 何か継続的な協議のために降りるとか。

○貞森審議官 継続的にいたということは余りないです。

○質問者 総理はいたかもしれないけれどもということですか。

○貞森審議官 総理は、そうだったでしょうね。私もずっと総理と一緒にいたわけではないので。

○質問者 その後、13日ぐらいからプラントメーカーの方、日立、東芝の技師長とか社長

【取扱い厳重注意】

の方であったり、あとは放医研の放射線センターのセンター長の方がいらっしやったり、いろいろな方が官邸に来られているんですけども、どういう人をどういうタイミングで呼ぶという話を総理から指示を受けたとか、そういう御記憶はございますか。

○貞森審議官 東芝と日立はあります。たしか最初に東芝を呼んだんだと思うんですけども、当然プラントメーカーにも協力してもらわなければいけないということで、勿論もともとやっていると思いますが、総理としても東芝に直接協力をしてほしいと、現場の収束のために協力してほしいという要望をされました。そのために東芝を呼んで、その後、日立も来ていただいたということだと記憶しています。

○質問者 それは何かきっかけがあって、いつごろのタイミングでとかいうのはどうですか。

○貞森審議官 いつごろのタイミングかというのは、もうオープンになっていると思いますけれども、たしか東芝を呼んだのは13日の午前中だったと思います。日立はその翌日ですかね。多分動静とかを見ればわかると思います。

○質問者 何か具体的に、こういう情報が欲しいから呼んでほしいとか、何かイベントがあったのでその対応として呼んでほしいとか。

○貞森審議官 まさに現場の収束のために、実際につくった人というか、メーカーのいろいろな知見というのが必要なので、もう東電はあっぶあっぶ状態で手が足りないことは明らかですし、むしろプラントメーカーの方がわかっている部分も当然あるということで、総理の方から協力をしてほしいという話が両方のメーカーに対してあったということですね。

○質問者 では、これは総理の御意向で。

○貞森審議官 そうですね。総理から東芝を呼べと言われて。

○質問者 また日程が前後して恐縮なんですけれども、3月12日の朝に、総理は現地の方の視察に行かれているかと思うんですが、これはどういった経緯で行くことになったかというのは御記憶がございますか。

○貞森審議官 私はよくわからないんです。3月11日の夜、9時とか10時とか、そういうタイミングでは、まさに電源車を送らなければいけないということで、総理も物すごく気にかけていて、先ほど言ったような連絡をされていましたし、たしかあのころは官邸の総理の執務室のホワイトボードに、電源車が何台向かっていてというようなものを書いていた記憶もありますのでそれをやっていて、その後、たしか総理は深夜に、一度下に降りられているんですね。だれからかはわからないんですけども、私はずっと5階にいて、たしか日付が変わった後も、電源車はどうなっているんだとか、つながりましたとかという連絡がなかなか来ないんですね。結局それは、ケーブルが足りなかったりということで、全然うまくいってなかったというのが後からわかるんです。

そうこうしているうちに、時間は覚えていないんですけども、2時とか3時とか、そんな感じだったんですね。済みません、時間は正確に覚えていません。連絡があって、

【取扱い厳重注意】

たしか下から電話があったんだと思いますけれども、総理が現地に行く可能性がある、現地に行くことを検討しているという連絡があったので、たしか私は保安院経由で東京電力に対して、今、そういうことを検討しているというのを伝えた記憶はあります。

○質問者 下からというのは、緊参チーム。

○貞森審議官 だったと思うんです。たしかあのとき、2時とか3時とか、そういった段階は、総理は執務室にはいなかったと思うので。

○質問者 総理は長い間、下に降りられていたような感じですか。

○貞森審議官 あのときはたしかそうだったと思います。ただ、そこは明確に覚えてないんだな。そこら辺の記憶は余りはっきりしてないんですが、とにかく検討しているという連絡がだれかから入って、別の秘書官だったかもしれませんけれども、それで保安院経由だったと思いますが、東京電力に対して連絡をした記憶はあります。

○質問者 そうすると、秘書官がその話を伺ったときには、もう既に行くことが前提としてしまっていて。

○貞森審議官 決定ではなかったと思います。

○質問者 その後、具体的にオペレーション的に決定がなされたのはいつごろですか。

○貞森審議官 私はそこに立ち会っていないので、それはわかりません。

最終的に行くということになって、私は広報担当でもあるので、プレスの同行をどうするかというので、スーパーピューマだったので、結局いろいろな所要のどうしても乗せなければいけない人を乗せていくと、プレス用の席は1個しかないというので、たしか官邸の報道室だか広報室に連絡をして、通常こういう場合は時事と共同は総理と一緒に動けるんですけども、時事と共同のどちらか1社、一人しか乗せられないので、時事と共同で決めてくださいという連絡をした記憶があります。そういったことをやっていた記憶はありますけれども、ちょっと具体的に行くという決断がいつどのようになされたかというところは、私は立ち会っていないので。

○質問者 実際に御同行もされてはいない。

○貞森審議官 同行していません。

○質問者 政府側では、班目委員長をはじめ行かれた。

○貞森審議官 班目委員長は同行していましたね。

○質問者 そういった協議というのは、もう下で決まっていたような感じですか。

○貞森審議官 どこで決まったのかは知らないですけども、少なくとも私は所要の者というか、とにかくスーパーピューマの座席が1個しか空いてないので、医務官とか、そういった人もいるわけですね。それで、残りが1個しかないという状態での連絡でしたね。

○質問者 今、言われていることでもあるんですけども、こういった緊急事態で最高指揮官が指揮所を離れると言うんでしょうか、そういうことの是非について当時官邸で議論があったとか、そういう御記憶はございますか。

○貞森審議官 それはあったのかもしれませんが、私はその議論の場には立ち

【取扱い厳重注意】

会っていません。

○質問者 秘書官御自身はどのように思われましたか。

○貞森審議官 正直に言って驚きましたけれども、そこはもう総理に伝えるのが私の仕事ですので、そういった必要な連絡をしてやるということ。

○質問者 次が、ちょっと日付が飛んでしまってあれなんですけれども、3月14日～15日にかけて、統合本部というのが15日の朝に設置をされておるんですが、その設置経緯について御記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 余りはっきり覚えていないんですけれども、14日の夜からだったと思います。14日の夜から15日の未明にかけて2号機の状況が悪化していて、私は直接そのときには関与していませんけれども、経済産業大臣や官房長官に対して、東電の方から撤退の意向を伝える連絡があった。

それを受けて官邸の方も、これも私自身はその打ち合わせには入っていないので、そういった意味では自分自身のファーストハンドの記憶ではないんですけれども、私が理解しているところは、総理、経済産業大臣、官房長官と松本大臣、三副長官と補佐官、安全委員会と保安院も入ってその協議をして、東電は撤退すべきではないという結論になって、それを踏まえて東電の清水社長が官邸に呼ばれた。

清水社長に対して総理の方から撤退はあり得ませんよという話を伝えたことと、そのときにどうしても連絡がうまくいっていないということで、政府と東電の間の連絡をよくするために統合本部を設置することとしたいと総理の方から東電の清水社長に対して話をし、それを東電の清水社長が了解、合意されたということで、統合本部をつくるということになった。それで、その第1回会合というか、それとして、5時半ごろだったと思うんですけれども、まさに総理が東電に乗り込まれたということだと記憶しています。

○質問者 そういった協議であったり東電とのやりとりがなされている間、秘書官はどちらに。

○貞森審議官 私はそのときは、ほとんど直接は関わってなくて、正確な時間は覚えていないんですけれども、ほとんど深夜ぐらいのタイミング、12時とか1時ぐらいに、その日、私は1回家に帰っているんです。ずっといたもんですから。

それで、秘書官もある種交代というか時々抜けながらやっているの、たしか山崎秘書官だったと思いますけれども、もう余りにもずっといるので「一瞬家に帰ったらどうか」と言われて、たしかそのまま帰ったんです。それで、2時ぐらいに家に帰って。

○質問者 14日の午前2時ですか。

○貞森審議官 午前2時前後だったと思うんです。

○質問者 15日の。

○貞森審議官 15日です。15日の2時ごろに一旦家に帰って、それで30分ぐらい寝たんですかね。そうしたら携帯で起こされて、やはり来なければだめだと言われて、たしか4時過ぎぐらいに官邸に着いたのではないかと思います。だから、私が着いたときにはも

【取扱い厳重注意】

う東電に行くというのは決まっているという状態でした。

したがって、今、申し上げたのは基本的に、その後でいろいろな国会答弁とか何とかという過程も含めて、官邸の中で何が起こっていたのかというのを議論していく中であれなもんですから、私自身がその会議をやっているところを目撃したわけではないので、そういった意味ではファーストハンド、私としての記憶ではありません。

私自身が直接記憶しているところだけを申し上げますと、確かに14日の夜から2号機の状況が物すごく悪化しているという連絡は受けていました。これは私自身が認識しています。ただ、私自身は東電自身が撤退したいと言っているとかいう連絡はつないでもないもので、それは私自身の認識ではありません。私がいないうちに、どうもそういう打ち合わせもあって東電に行くということが決まった。ちょうどその決まった辺りに私は家からたどり着いて、東京電力に行くときは一緒に行きました。そういう経緯です。だから、私自身の直接の記憶という意味ではお役に立たないかもしれません。

○質問者 当時2号機の状況が悪化していて、今回の事故の中で最も危機的状況だったと言う人もいるような状態だったと聞いているんですけども、その状態で秘書官の何人かが帰るとか、体制をちょっと緩めるような判断になっているというのは何かきっかけがあったのですか。

○貞森審議官 体制は必ずしも緩んでないと思うんです。確かに事後的に思えば、そこでもう少し世の中がちゃんと見えていれば、だからその点は私自身もちょっと悔いがあります。ただ、ずっといたもんですから、ほとんど役に立たないような状況になっていたものですから。

○質問者 疲れからですね。

○貞森審議官 そういった意味ですね。

ただ、私自身にとってはそういうことですけども、総理の周りには専門家も含めて厚い布陣になっているので、その時点で官邸の対応能力が低くなっているということは勿論ないと思います。

○質問者 もう一点、これは全く御存じないかもしれないんですけども、当時同じぐらいのタイミング、14日の夜ぐらいに、オフサイトセンターも福島県庁に移転をすとかという話が若干上がっていたようなんですけども、そういった話を聞かれた御記憶はございますか。

○貞森審議官 あったかもしれませんが、それは記憶にないですね。

○質問者 官邸の中で、オフサイトセンターも撤退すとか、東電も撤退すとか、そういう話が上がっていたとかは。

○貞森審議官 オフサイトセンターの話がどれぐらい認識されていたのかというのは、わからないですね。

○質問者 それ以降もオフサイトセンターの撤退について、15日に実際に撤退をするんですけども、撤退したとか、そういう話を聞いたことは御存じですか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 いつ、どう聞いたかというのは覚えてないですね。

○質問者 次は、今回の初動の中で、全体的なざっくりした質問になってしまうんですけども、情報の共有という意味で、秘書官として情報収集をされるに当たって、例えば保安院が地下にいたり、保安院本院から直接連絡をしたり、いろいろな情報収集ルートがあったかと思うんですが、秘書官の方に保安院から何か有益な情報が上がってきたとか、そういう印象的なものはございますか。

多分秘書官も、事故対応に当たって総理に上げる情報を収集されていたりもしたと思うんですけども、保安院から十分な情報提供があったかというところを1つ問題意識として持っております。

○貞森審議官 何をもって有益な情報と言われるのかはわかりませんが、保安院は、何がしか、だれかは常にほとんどずっと官邸の5階にいる状態でした。統合本部ができてからは、そちらの方に一元化されていったと思いますけれども、そういった意味で、保安院からは常に、彼らが把握している情報については、どの程度のものが来ていたかというのはともかくとして、官邸に伝達をされる仕組みにはなっていたと思います。

○質問者 私からは最後の質問になるんですけども、ちょっと話題が変わりまして、SPEEDIの情報が、一部の計算結果が早い段階で官邸に入っていたというふうにも聞いておりまして、そういった情報を秘書官御自身がごらんになった記憶はありますか。

○貞森審議官 ありません。

○質問者 いつ初めて見たというのはございますか。

○貞森審議官 SPEEDIについて最初に認識したのは、調べればいつかはわかると思うんですけども、少なくとも3月20日は過ぎていたのではないかと思います。原子力安全委員会が、SPEEDIの結果について公表している日があると思います。

○質問者 3月23日です。

○貞森審議官 SPEEDIについての話を最初に聞いたのは、多分その日だと思います。

○質問者 では、秘書官の方から総理にそういうデータを3月15日以前ぐらいで上げられたとか、そういうことも一切ない。

○貞森審議官 そもそも存在自体を知らなかったです。

○質問者 わかりました。

○質問者 先ほど避難の関係をお聞きしていたんですけども、幾つか補足で、先ほど聞き切れなかったところをお聞きしたいんですけども、もしわかっただらということですけども、2Fから10キロの避難指示が3月12日の5時40分ごろに出ているんです。当時1Fで水素爆発があって、1Fに対する対応をどうするかということで検討していたというところはわかるんですが、このタイミングで2Fの方の10キロの避難指示が出ているという部分がちょっとわからないんです。もしこの場におられたら。

○貞森審議官 これは記憶にないです。

○質問者 時間的には、先ほど海水注入の話が出た⑥の18時25分の1時間ぐらい前です

【取扱い厳重注意】

ね。

○貞森審議官 そうですね。

○質問者 このころ、第二原発の炉がおかしくなっている、やはり避難指示を出さないといけないとか、そんな議論をされているのを耳にされた記憶はございませんか。

○貞森審議官 記憶はないですね。

○質問者 先ほど、統合本部設置経緯ということで話をお聞かせいただいたんですけども、3月15日の11時に20～30キロの屋内退避の指示というのが出ておりまして、この避難指示について御記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 3月15日は、行った日ですね。

○質問者 そうです。

○貞森審議官 もう中身は覚えていないんですけども、たしか行った日に東京電力の方から、彼らの試算で放射性物質がどれぐらい拡散するというシミュレーションの絵が、あの日、総理に対して示されたのではないかと思うんです。総理というか、これに対してですね。

それで、その絵自体は、その時点で既に適用されていた20キロで収まるような話だったんですけども、当然のことながら次々と複数機がいくようなことになれば、もう少し広げなければいけないのではないかという議論が、というか、「複数機について非常に悪い状態になった場合、20キロで大丈夫なのか」というふうに総理が問われたのに対して、たしか東京電力側は必ずしもはっきり自信を持った回答ができなかった状態があったんですね。それで、そこら辺のやりとりも含めて戻ってどうするかという点が議論されました。

ただ、避難自体を30キロに広げるということになれば物すごく大変なことになりますし、現実的にできるかどうか、あるいはそこまでの必要があるのかどうかという点もいろいろ議論をされた上で、最終的に11時に出した結論というのは、20～30の間は屋内退避にしようという内容になったと記憶しています。

○質問者 総理の20で収まるのかという疑問から議論が始まっていったと。

○貞森審議官 そうですね。

○質問者 このときに、30まで広げるべきではなくて、屋内退避でいいのではないかとこのことを主張されていた人は覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 済みません、そのときに個別具体的にだれがどういう主張をしていたかとか、そういうことまでは覚えてないですね。

○質問者 このときに貞森さんの方から、例えば保安院とかに対してどう思うかという意思を聞いてみたりということはやられていたんでしょうか。

○貞森審議官 保安院に対しては私はその点を聞いた記憶があって、それが具体的にどんなものだったかというのは覚えてないんですけども、東京電力が示した放射性物質がどれぐらい拡散しますというシミュレーション自体の前提について、一体どういうものなんだというのを聞いた記憶があります。保安院のだれだったかは覚えてないんですけども、